

図1 牌子



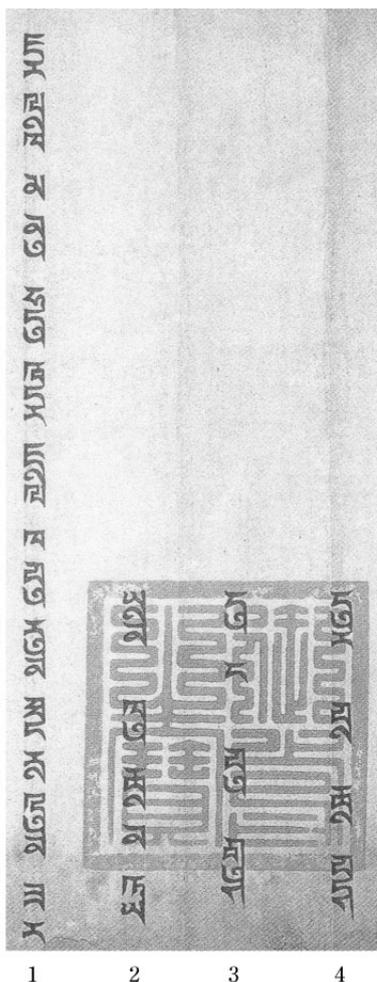
注) 蒙古文のローマ字転写と訳は、以下の通り。1行目の moŋk'a dɛŋri は蒙古文語の möngke tngri にあたる。2行目の k'uč'un-dur, および、4行目の bušire esu の u はすべて前舌母音 ü を写しており、蒙古文語の küčün-dür, bisirebesü にあたる。

1. moŋk'a dɛŋri-
永遠なる 天
2. yin k'uč'un-dur
の 力(の下)に。
3. qa an-u jarliq k'en
皇帝の 詔勅。 誰ぞ
4. ɛse bušire esu
信じないならば
5. aldat'uqayi
罪となれ。

に富んだ字形は、碑文や印章等には恰好のもので、好んで用いられた。漢字の篆書にならい、さらに筆画を増やして装飾性を追求した字形もある。

【代表的資料】 碑文、文書、印章、牌子、貨幣などがある。最も数多く残っているのが碑文である。記された文字の数も他を圧して多く、資料的価値が大きい。ほとんどが、パスパ文字と漢字の2体で刻まれている。漢語の伝統的な文語文(いわゆる漢文)とパス

図2 勅令文書



注) 勅令文の最後に置かれる定型句。2-3行目にある「大都」は、今日の北京。翻字では tay-du であるが、漢字音を写しているので day-tu と転写した。1行目の t'eri un および3-4行目の bukué-dur の u はすべて前舌母音 ü を写しており、蒙古文語では bükküi-dür となる。

1. jarliq manu hūker jil
勅令は(我らの) 丑(の)年
qabur-un t'eri'un zara-
春の最初の月
2. yin qué'in-a day-
の 30日に大
3. tu-da buguè-
都に居る
4. dur bič'ibeè
時に書いた。